



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# とうがね 千葉県立東金病院

5

千葉県立東金病院（以下、東金病院）は、1953年に医療過疎対策のモデル事業として開設された千葉県内最初の県立病院である。現院長の平井愛山氏が院長に赴任した1998年4月当時、東金病院の救急・重症患者の受け入れ体制は非常に問題があり、地域での評判は好ましくなかった。病院の目の前で交通事故が起き、救急隊が患者の受け入れを要請しても、診療科が違うとい

う理由で、スタッフが現場に駆けつけることもなく断るといったことが平然と行われていた<sup>[1]</sup>。このことは、隣接する長生郡市の医師会メンバーにも広く知られていた。山武地域（東金市を中心とした地域）の救急医療では、東金病院の受け入れない救急患者の多くが域内の組合立国保成東病院に搬送されていた。そこでも受け入れきれない患者達は、域内の他の病院あるいは域外へ搬送せざるを得ない状況も起きていた<sup>[2]</sup>。

10

15

また、東金病院の診療技術の多くは遅れており、さらに、院内には患者サービスと呼べるようなものはなかったという<sup>[3]</sup>。外来は、診療予約制をとっていないだけでなく、事務的な体制が不十分で、患者は長時間診療のために待たなければならなかった。そして、診療を受けた後も、薬を院内薬局で受け取って会計をするまでに長い時間がかかっていた。

新しく赴任した平井院長は、現状を厳しく受け止めた。そして、“地域住民の信頼回復”と“病院経営の健全化”を目標とし、医療連携・人材育成を基軸に様々な取り組みを打ちだしていく。医師をはじめとするスタッフと力を合わせ、奮闘しながら、東金病院は画期的な変貌を遂げていった。

20

25

<sup>[1]</sup> 平井愛山（1999）「東金病院の改革の歩みと今後の展望」千葉医学. vol. 76. pp. 323-335.

<sup>[2]</sup> 平井愛山・秋山美紀（2007）『地域医療を守れ』岩波書店.

<sup>[3]</sup> 同上。

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科中村洋教授指導の下、同研究科博士課程大野幸子が作成したものであり、経営管理に関する稚拙を記述したものではない。また本ケースの作成に当たってご協力いただいた千葉県立東金病院平井愛山院長に感謝の意を表したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 大野幸子（2010年7月作成）